
新中期経営計画「Ortus Stage 1」

Ortus(オルタス): ラテン語「はじまり、誕生」

大陽日酸株式会社
2014年5月14日

内容

I. 長期経営ビジョン

II. 新中期経営計画の経営目標

III. 構造改革

IV. イノベーション

V. グローバリゼーション

VI. M&A戦略

VII. 投資計画

I. 長期経営ビジョン

2022年度までに、

**『売上高1兆円・営業利益率10%・ROCE10%以上・海外売上高比率50%以上』
を実現**

⇒ 新中期計画を長期経営ビジョン達成のための第一ステージと位置付け、新たな収益基盤を築くための基礎作りと体制整備を図る

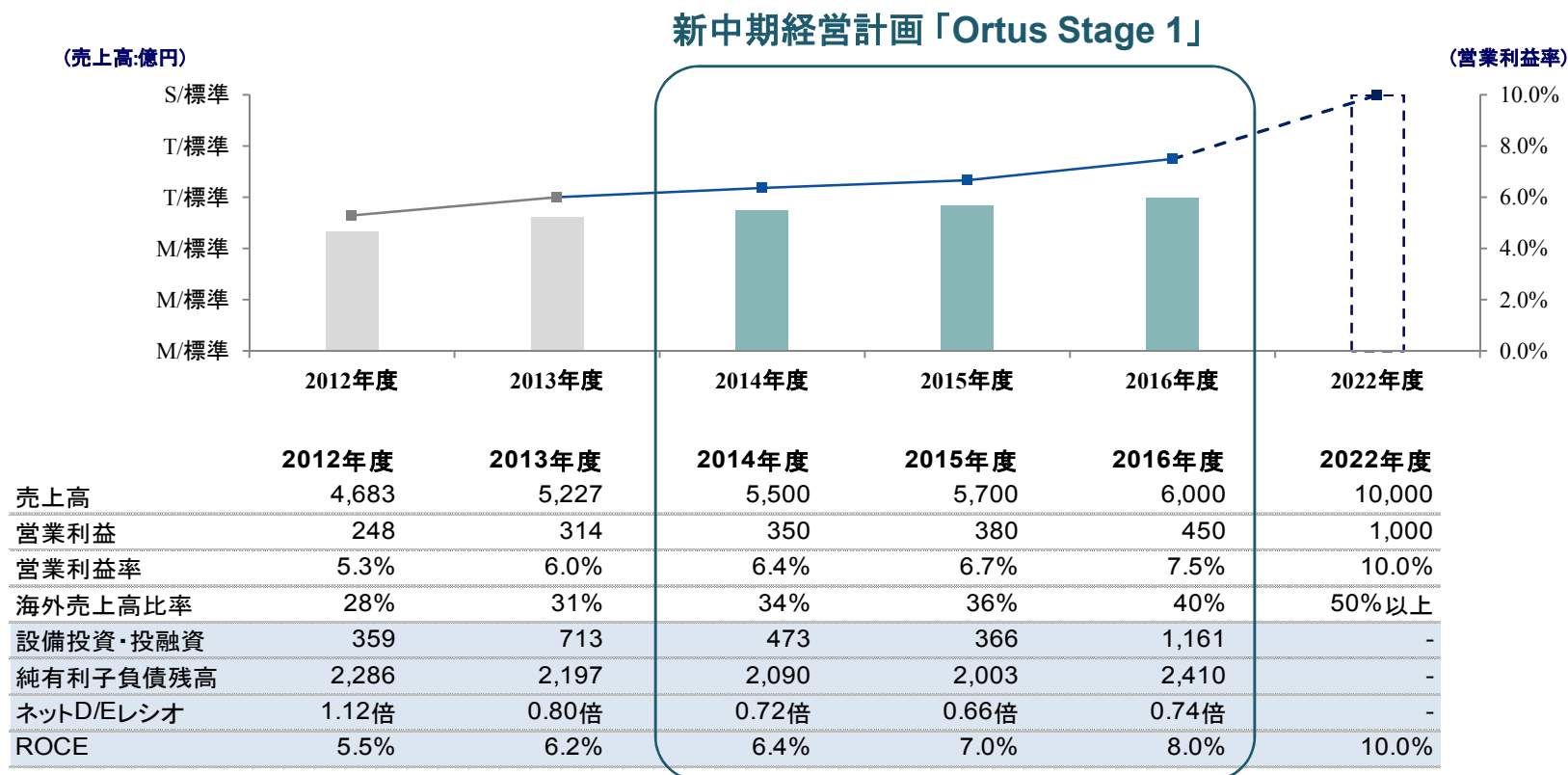


【今後の株主還元方針】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置づけており、安定的な配当を維持しつつ、業績に連動した配当政策を進めてまいります。今後は新中期経営計画に掲げた戦略方針に基づき、業績の更なる向上に努め、当中期経営計画期間(2014年～2016年度)において連結配当性向の引き上げをめざします。

Ⅱ. 新中期経営計画の経営目標

2016年度に、
『売上高6,000億円・営業利益率7.5%・ROCE8%以上・海外売上高比率40%以上』
達成を目指す

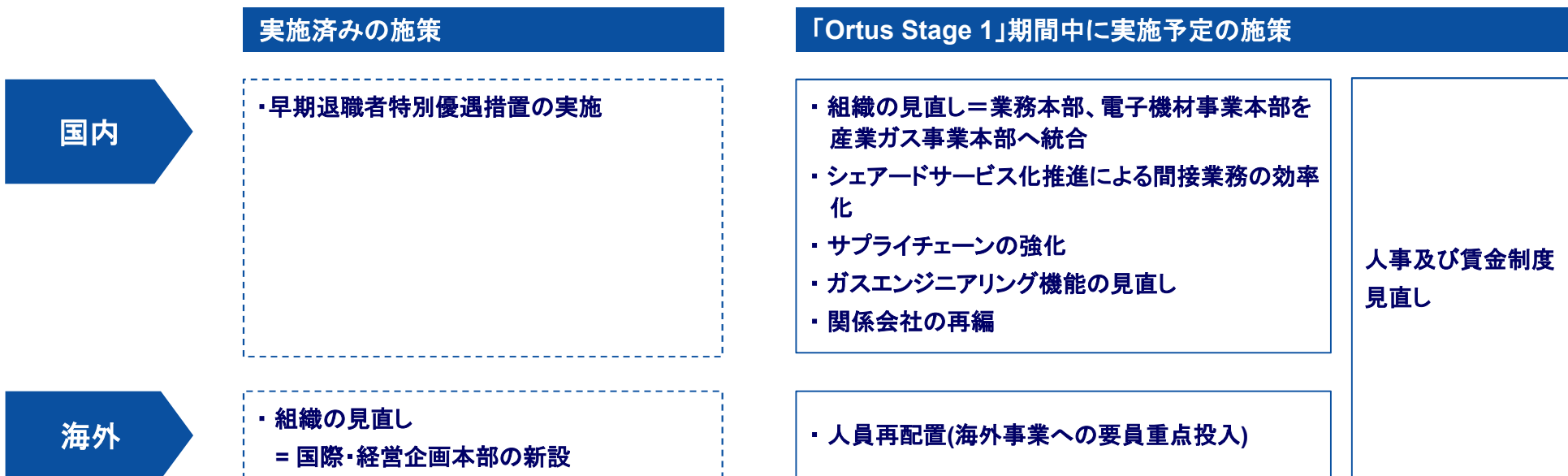
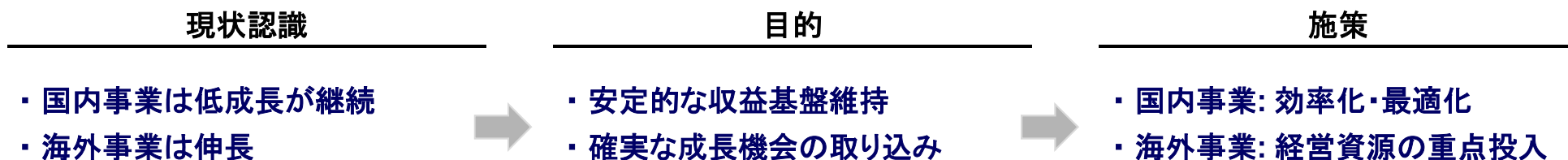


構造改革・成長戦略

最適化・規模拡大

Ⅲ. 構造改革

施策実施によって、60～70億円/年の固定費削減(対2014年3月期比)達成が目標



IV. イノベーション

天然ガス・シェールガス等の世界的なエネルギーを巡る環境変化を捉え、次世代の核となる新規事業を創出

社外のイノベーションを積極的に取り込み、グローバル市場を見据えた新規商材の開発を加速

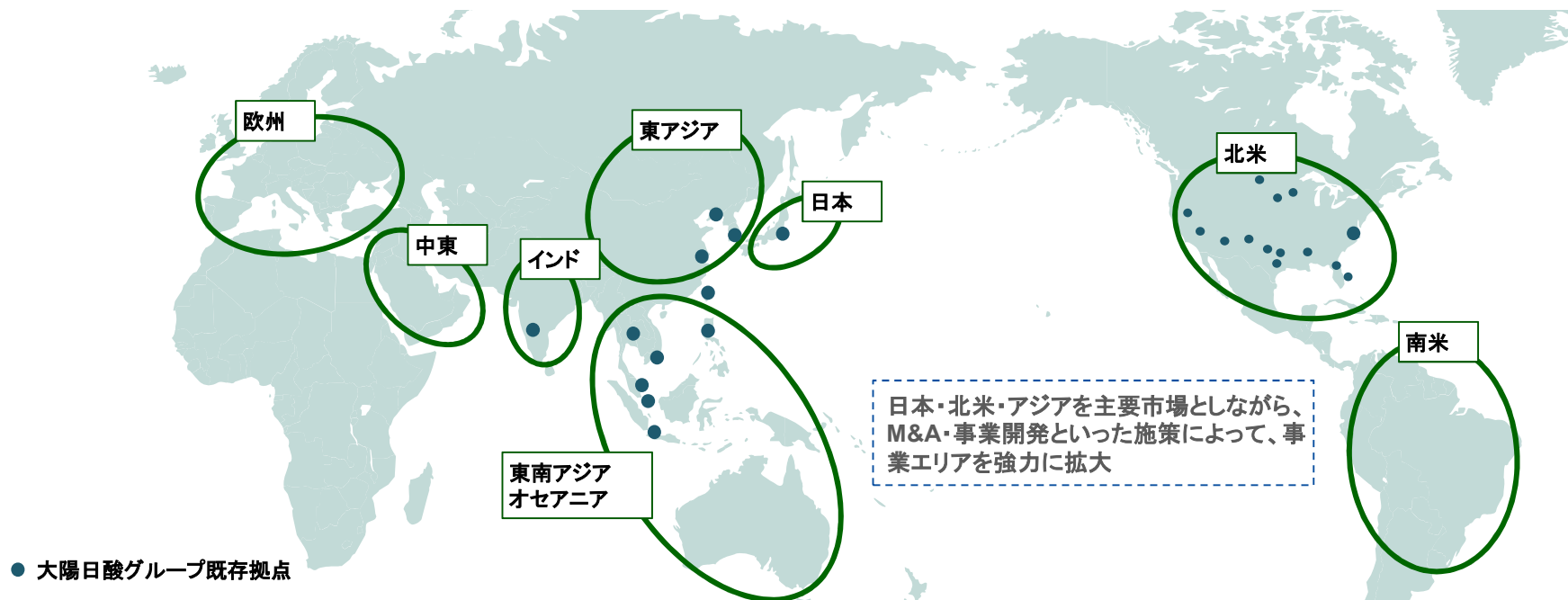
“イノベーション”の定義 = 新しい技術やアイデアを基に、全く新しい価値を創造する

- ・ 三菱ケミカルホールディングスグループとの連携強化による新規シナジー創出
 - － 海外オンサイト事業、人工炭酸泉、新素材
- ・ オープンイノベーション
 - － ベンチャー投資、M&Aを通じた高付加価値製商品の開発 / 販売
- ・ 新規エネルギー事業の開発
 - － 天然ガス液化事業、水素オンサイト事業、シェールガス関連事業
- ・ 成長市場への新規戦略製商品の投入
 - － 水素ステーション、超電導冷却システム、PSA式窒素発生装置、酸素安定同位体標識水(水-¹⁸O)、ヘリウムコンテナ、新素材、他

V. グローバリゼーション

「Ortus Stage 1」の期間中に事業の本格的なグローバル展開を進め、長期的(2022年)には、海外売上高比率を50%以上に引き上げ

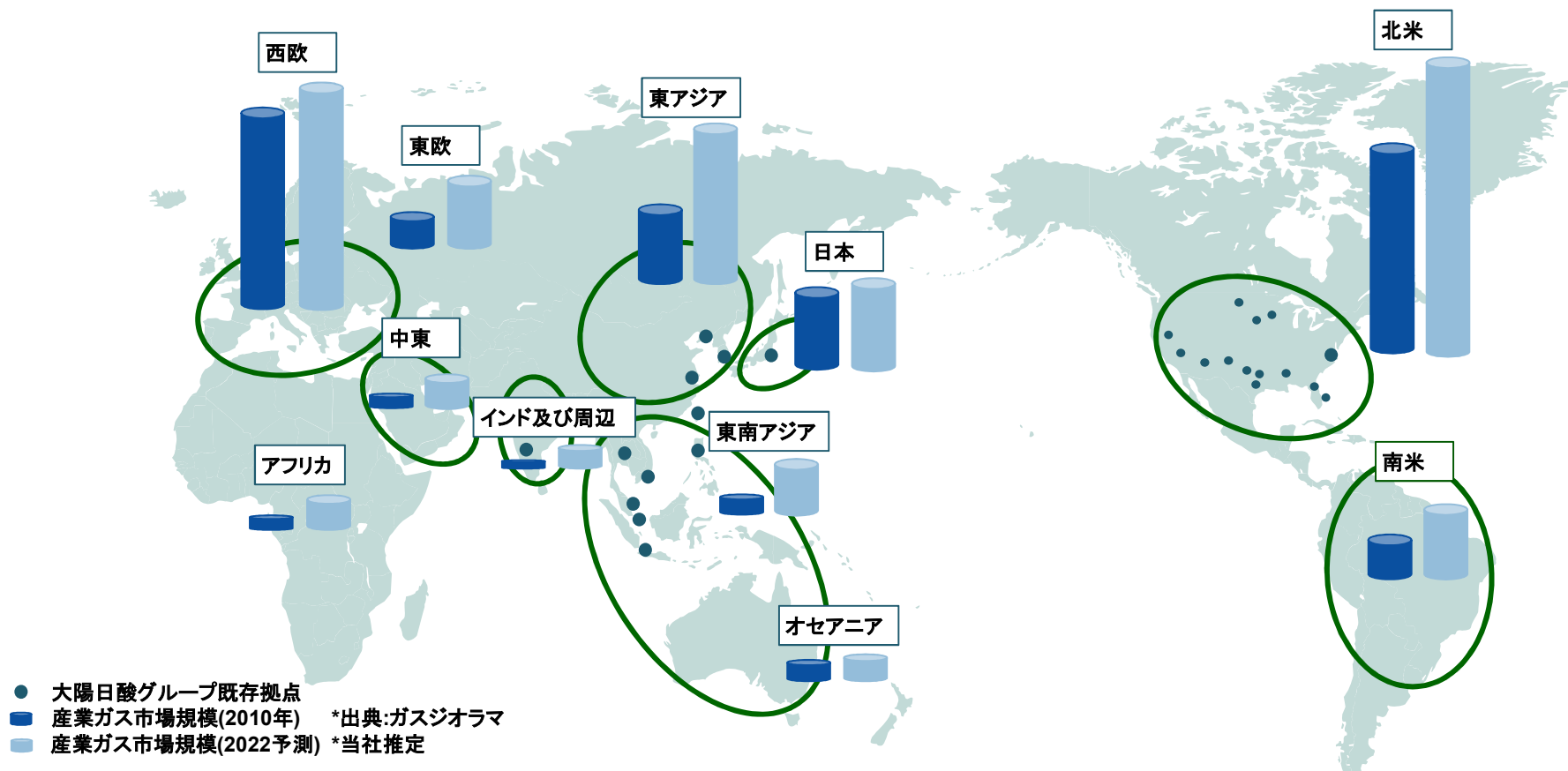
成長機会の確実な取り込みに向けて、米国・新興国等で経営資源を戦略的に投入



- ・ 海外経営体制の現地化推進: グローバルイノベーショングループ新設、中国、インド、東南アジア事業体制
- ・ 国内グループ会社のグローバル展開強化: 東南アジア等
- ・ グローバル人財の育成: 海外事業への人員シフト、海外トレーニー制度の導入
- ・ 国際財務報告基準(IFRS)導入
- ・ グローバル規模での技術リスク管理の強化

VI. M&A戦略

未進出国を含めたグローバル市場の開拓・参入を実施し、事業規模拡大の加速



- ・ 販売チャネル、製品、地域ポートフォリオの拡充
- ・ 規模拡大、事業密度向上による収益性改善
- ・ 人財・技術・ノウハウの獲得並びに有効活用

VII. 投資計画

事業会社M&A・ベンチャー投資・大型設備投資・合理化投資など、国内外において3年間で2,000億円の戦略的投資を実施

投資計画 (戦略区分)

通常投資	750億円
M&A	400億円
大型設備投資・合理化投資	820億円
ベンチャー投資	30億円
合計	2,000億円

投資計画 (地域区分)

日本	580億円
米国	770億円
アジア 他	650億円
合計	2,000億円

投資事例

山口県周南市
酸素安定同位体標識水(水-¹⁸O)製造プラントの増設



米国フロリダ州Lakeland
シェールガス革命による産業回帰が進む米国での空気分離装置新設

